

プレスリリース

2013年12月13日  
国境なき医師団 (MSF)

### 中央アフリカ共和国 : MSF、人道支援足りないと国連に公開状

国連の関係諸機関が、中央アフリカ共和国（以下、中央アフリカ）の人道危機への対応拡大で合意した。国境なき医師団（MSF）は、国連のバレリー・アモス人道問題担当事務次長に公開状を宛て、国連はこれまでのところ、甚大な人道援助ニーズに対し適切な対応ができていないと指摘、速やかな対応拡大を求めている。

#### 遅すぎた決断

主要な国連人道機関と外部のパートナーで構成される調停委員会「機関間常設委員会（IASC: Inter-Agency Standing Committee）」によって、中央アフリカの危機対応に今後より多くの資源が投じられることが決定された。そのことは自体は歓迎すべきだが、今回は決断が遅すぎた。この数か月で中央アフリカの人的状況は大幅に悪化したことを鑑みると、これまでに多くのことが実践されていなければならなかった。

国連の活動はこれまでも十分とは言えない上に、現在実施されている活動さえも中断されることが多い。担当機関が支援対象地域から人員を引き上げ、撤退が長期に渡った例もある。

現在、首都バンギの空港には約 3 万人が避難しており、MSF は食糧、テント、衛生設備の配給を再三求めたが、国連機関の具体的な対応は見られない。また、状況の深刻なオンベラ・ムポコ州ヤロケとウハム州ブーカへの複数回の支援要請にも反応はない。

また、ウハム州ボサンゴアで、安全のため中部アフリカ多国籍軍（FOMAC）の宿舎に待避していた国連の支援スタッフは、同じ敷地内に避難してきた人びとにさえ援助を提供せず、やむなく MSF が再び活動に乗り出した。同地での武力衝突後も、国連は数日にわたって安全待避を維持。主要な避難キャンプにいる合計 3 万人余りが孤立したため、MSF と NGO「飢餓に対する行動（ACF）」のチームが市内を巡回し、緊急援助を行った。

MSF オペレーション・ディレクター、バート・ジャンセンは、「MSF とその他の NGO 数団体が現地で尽力していますが、依然として極めて高いニーズがあります。国連は出遅れたものの、今回の決断が実効力を示し、効果をもたらすことを期待しています」と話している。MSF はこの数か月、中央アフリカの過酷な人的状況について証言を続けてきた。そして、厳しい治安条件ではあるものの、同国内での人道援助活動も、その拡大も可能だということを、身をもって証明してきた。



**MEDECINS SANS FRONTIERES**  
国境なき医師団

MSF は中央アフリカで 1997 年から活動、現在はバタンガフォ、ボギラ、カルノー、カボ、ンデレ、パウア、ゼミオの 7 か所で定常の援助プログラムを、バンギ、ボサンゴア、ブーカ、ブリアの 4 か所で緊急の援助プログラムを運営している。また、緊急対応できる移動診療チームが、ブワル、ヤロケ、バンギの避難キャンプで医療活動にあたっており、2013 年末までにバンガースーとワンゴの病院でも活動を開始したい意向だ。現在、国内で合計約 40 万人に無償の医療を提供。100 人以上の外国人スタッフと 1100 人の現地スタッフが、国内各地にある病院 7 か所、医療施設 2 か所と診療所 40 か所で活動している。

以上

**本件に関するお問い合わせ先：**

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本 広報担当：館 俊平（たち・しゅんぺい）

TEL：03-5286-6141 携帯：090-5759-1983 FAX：03-5286-6124

E-mail: [press@tokyo.msf.org](mailto:press@tokyo.msf.org) <http://www.msf.or.jp>